令和８年 11 月 17 日

保護者の皆様

札幌市立篠路西中学校
学校長　　門田　章人

「全国学力・学習状況調査」の結果について

立冬の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、令和８年４月 22 日(水)、23 日（木）及び５月 14 日（木）に第３学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、本校の調査結果の概要がまとまりましたので、お知らせいたします。

記

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育政策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

２　調査問題の領域・区分

国語…「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」

数学…「数と式」「図形」「関数」「データの活用」

英語…「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」

３　生徒質問紙による調査

学力・学習状況調査と併せて、設問形式により生活・学習習慣、生活体験などに関わる生徒質問紙調査も実施された。

【 国 語 】

教科に関する調査結果概要及び改善の方向等について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【区分及び領域】 **1「言葉の特徴や使い方に関する事項」** ▼全国平均を下回っている	➢文脈に即した漢字や語句の理解と使用に大きな課題がある。	➢漢字や語句の実践的理解を高めるための語彙指導の充実。
2「情報の扱い方に関する事項」 ▼全国平均を下回っている	➢おおむねできているが、さらに理解度を上げる必要がある。	➢情報とその価値と扱いについて、単元にとらわれず意識付けを行う。
3「我が国の言語文化に関する事項」 未出題	➢未出題	➢未出題
A「話すこと・聞くこと」 ▼全国平均を下回っている	➢立場や考えの違いを尊重し合って結論を出す話し合いに大きな課題がある。	➢根拠のある意見を持ちながら、他の考えをその立場から理解しようとする態度を養う。
B「書くこと」 ▼全国平均を下回っている	➢表現の工夫や効果について相互に批判的に捉え、推敲することに課題がある。	➢技法の技術的理解を踏まえて実践的な場面での活用力や批判力を高める。
C「読むこと」 ▼全国平均を下回っている	➢目的に応じて要約する力と、読解に基づいて考えを確かに書くことに大きな課題がある。	➢要約の練習と、自分の考えをしっかりと持って書く活動を多くする。

記号の意味

(△)上回っている (+3%以上)

(◇)やや上回っている

(◆)やや下回っている

(▼)下回っている (-3%以下)

＊「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±３ポイントの範囲内。

【 数 学 】

教科に関する調査結果概要及び改善の方向等について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【 区 分 及 び 領 域 】		
1「数と式」 ▼全国平均を下回っている	➢問題場面を明確にとらえ、予想が成り立つことを示す式を書くこと。 ➢操作によって生まれた２つの数について、その特徴を数学的な表現を用いて説明すること。	➢任意の形に式変形を行ったり、論理的に説明する場面を多く設定したりする。基礎事項の定着のために、個に応じた反復練習の実施。
2「図形」 ▼全国平均を下回っている	➢具体的な角の大きさについて、文字を使った式で書くこと。	➢数と式分野と図形分野のように異なる単元同士をつなげるような問題演習の実施。
3「関数」 ▼全国平均を下回っている	➢与えられたグラフから必要な情報を読み取り、２つの数量の関係を表すグラフの座標を書くこと。	➢基礎事項の定着のために、個に応じた反復練習の実施。
4「データの活用」 ▼全国平均を下回っている	➢起こりうる場合を表や樹形図を利用して整理し、二つのさいころについての確率を求めること。 ➢度数分布表を読み取り、ある階級の累積度数を求めること。	➢六六表、樹形図、度数分布表のように複数の数学的なツールの中から適切なものを選択する活動の充実。 ➢基礎事項の定着のために、個に応じた反復練習の実施。

記号の意味

(△)上回っている (+3%以上)

(◇)やや上回っている

(◆)やや下回っている

(-3%以下)

(▼)下回っている

＊「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±３ポイントの範囲内。

【 英 語 】

教科に関する調査結果概要及び改善の方向等について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
1「聞くこと」 ▼全国平均を下回っている	➢日常的な話題に関する内容を聞き、概要をとらえること。	➢学校生活などの日常的な話題について、時間の経過や話の展開を示す語句に着目し、話全体の流れや要旨をとらえる学習活動の充実。
2「読むこと」 ▼全国平均を下回っている	➢日常的な話題に関する内容を読み、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること。	➢必要な情報を読み取ったり、何が自分にとって必要な情報であるのかを判断したうえで読み取ったりする学習活動の充実。
3「書くこと」 ▼全国平均を下回っている	➢社会的な話題に関する内容を読み、要点をとらえ、考えとその理由を書くこと。	➢まとまりのある文章を読み、その内容に関する賛否や自分の意見、その理由や根拠を明確にしながら、内容を整理して書く学習活動の充実。
4「話すこと」 ▼全国平均を下回っている	➢電話でのやり取りや、日常的な話題について、事実や自分の考えを相手に伝えること。	➢状況をイメージしながら、そのときに必要な自分の意見や、その理由を明確に相手へ伝える学習活動の充実。

記号の意味

(△)上回っている (+3%以上)

ほぼ同程度 (◇)やや上回っている / (◆)やや下回っている

(▼)下回っている (-3%以下)

＊「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±３ポイントの範囲内。

【生徒質問紙調査】から～生活や習慣に関すること～

《今年度の調査結果から抽出した事項》

肯定的な回答の高いもの	肯定的な回答の低いもの
・「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」 ・「将来の夢や目標を持っていますか」 ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」 ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」	・「１日当たりどれくらいの時間、SNS や動画視聴などをしていますか」 ・「学校の授業時間以外に、１日当たりどれくらいの時間勉強しますか」 ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」 ・「ICT 機器で文章を作成したり、情報を整理したりできると思いますか」

《学習時間に関わる事項》

＜学習時間＞	3時間以上	2~3時間	1~2時間	0.5~1 時間	0.5時間未満	全くしない	(すべて%)	
平日の学習時間（塾・家庭教師を含む）	5.4	9.8	31.3	17.9	18.8	17.0	本 校 割 合	
	8.9	21.2	31.5	19.5	11.5	6.9	全 国 割 合	
休日の学習時間（塾・家庭教師を含む）	2.7	5.4	10.7	17.9	23.2	24.1	本 校 割 合	
	5.1	8.0	16.8	22.6	21.4	13.8	全 国 割 合	
＜PC やタブレット等の ICT 等を用いた平日の学習時間＞	3時間以上	2~3時間	1~2時間	0.5~1 時間	0.5時間未満	全くしない	無回答	(すべて%)
	0.0	0.9	5.4	13.4	33.9	32.1	14.3	本 校 割 合
	1.7	2.6	7.7	18.0	32.4	26.0	11.7	全 国 割 合

《今年度の調査結果分析》

今年度の調査結果では、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」「将来の夢や目標を持っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」といった項目で、全国の公立学校と比較して肯定的な回答の割合が高い結果となりました。また、道徳の授業で自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動についても、肯定的な回答が多く見られました。

一方で、家庭学習の時間や、自分で学び方を考えて工夫すること、授業で課題解決に向けて主体的に取り組むこと、学習内容を振り返って次の学習につなげることについては、課題が見られました。

また、ICT 機器を使った文章作成や情報の整理、発表資料の作成など、学習に ICT 機器を活用する力についても、全国の公立学校と比較して肯定的な回答の割合が低い結果となりました。

さらに、スマートフォン等を使った SNS や動画視聴などの利用や、困りごとや不安があるときに先生や学校の大人にいつでも相談できると感じている生徒の割合についても、課題が見られました。

今後は、授業の工夫や ICT 機器の効果的な活用を通して、生徒が自ら考え、主体的に学びを深める力を育てるとともに、家庭学習の習慣づくりを進めていきます。また、情報機器の適切な利用について指導するとともに、生徒が安心して学校生活を送り、困ったときには気軽に相談できる環境づくりにも努めてまいります。

ご家庭におかれましても、家庭学習の進め方やスマートフォン等の利用についてお子様と話し合うとともに、日頃からお子様の様子に目を向けていただければ幸いです。今後も、学校と家庭が連携しながら、生徒の健やかな成長と学力の向上を目指して取り組んでまいります。